

授業科目		科目概要・形式	配当年次	オンライン参加
がん看護学特論Ⅰ		2単位30時間(15コマ) 講義科目	博士前期1年次 前期開講	可・不可 「下記6, 7 参照」
科目責任者	鳴井ひろみ			
担 当 者	鳴井ひろみ、平典子（非常勤）、浅野美知恵（非常勤）、山崎智子（非常勤）			
1. 科目のねらい・目標				
<ねらい> がん患者・家族の看護に用いられるストレス・コーピング理論、危機理論、喪失、悲嘆等の理論について理解を深めるとともに、実践および研究への適用について探究する。また、既存の研究結果や文献、個々の体験に基づいて、がん看護の現状の課題を分析し、今後の展望について洞察する。これらを踏まえて、がん看護の質向上をめざした実践・研究・教育への活用方法を探求する。 <目標> 1) がん医療・看護の現状と課題、今後の展望について説明することができる。 2) がん患者・家族への看護に主に用いられる概念・理論について説明することができる。 3) がん看護専門看護師としてがん患者・家族に提供する専門的な看護の質向上のために、がん看護領域における主要な概念・理論を看護実践・研究・教育に活用する方法を検討できる。				
2. 授業計画・内容				
<がん患者とその家族に対する看護の現状と課題> 1回：がん医療・看護の現状と課題（鳴井） 2回：がん看護専門看護師の歴史と役割（平） <がん患者とその家族に対する看護介入に適用される主要な概念・理論の理解と活用> 以下の主要な概念・理論について、文献検討による概説、概念・理論を用いたがん看護に関する研究論文の検討、概念・理論を用いた事例分析を行いプレゼンテーション資料を作成する。これをもとに、がん患者とその家族に対する概念・理論を適応した看護介入の展開方法および研究・教育への活用方法について討議する。 3回：がんサバイバーの理解（平） 4～6回：ストレス・コーピング理論の理解と活用（鳴井） 7～9回：危機理論の理解と活用（鳴井） 10～11回：悲嘆・喪失理論の理解と活用（山崎） 12～13回：セルフケア理論の理解と活用（鳴井） 14～15回：エンパワーメントの理解と活用（浅野）				
3. 教科書、参考書				
講義の中で適宜紹介する。				
4. 成績評価方法				
講義・ゼミへの取り組み状況40%、プレゼンテーション・質疑応答の内容60%で総合的に評価する。				
5. 受講要件				
がん看護専門看護師コースの学生は必修				
6. 社会人学生に対する配慮				
オンライン授業等は相談があれば個別に対応する。				
7. その他				
・課題内容について文献検討を行い、プレゼンテーション資料を作成して臨むこと。 ・状況に応じてWebex meeting または Zoom を用いた遠隔講義を実施する。 ・オンデマンドの実施はしない。				

